

早稲田大学ラグビー蹴球部におけるリーダーシップ論—2人の指導者の比較を中心に—

The leadership theory of Waseda University rugby football club: The comparison study of two leaders

1K05B142

丹下 聡

指導教員

主査 作野誠一先生

副査 中竹竜二先生

序論

大学ラグビー界のみならず、あらゆる世代のあらゆるスポーツ界において、指導者のリーダーシップがそのチームや組織にもたらす影響力というのは計り知れないものである。と同時に、そのスタイルは指導者によって千差万別である。本研究では、毎年選手の入替わるこの大学スポーツの世界とりわけ大学ラグビー界において、低迷期からの復活を成し遂げ常勝時代を築くほどの強い組織・チームを築き上げてきた、早稲田大学ラグビー蹴球部の二人の監督におけるリーダーシップ論について触れ、彼らが理想とするリーダーシップの本質について研究していく。具体的には、筆者が早稲田大学ラグビー蹴球部に在籍していた当時に出会った清宮克幸氏と中竹竜二氏のリーダーシップスタイルや指導方法のあり方に触れ、日本一強い組織・チームを作り上げるためにこの二人が実践してきた組織変革から彼らのリーダーシップの実態を明らかにし、いかなる方法で常勝組織・チームを作りあげたのかを導き出すことを目的とする。

研究方法

まず、スポーツにおけるリーダーシップ研究からスポーツ組織に見られるリーダーシップマネジメントについての考察を行い、理想のリーダーシップのあり方について検討する。

次に、事例比較として、早稲田大学ラグビー蹴球部の二人の監督を取り上げる。彼らが実践したリーダーシップマネジメントにおいて詳細に比較検証するために、二人がそれぞれ著述した書物

や彼らのリーダーシップに関する記事や論文から文献調査を行う。そして、彼らのリーダーシップスタイルの違いや価値観の相違を挙げ、組織変革における共通点や相違点を導き出すことによって、彼らがどのようなリーダーシップを執り、いかにして日本一の組織・チームを作り上げたのかを明らかにする。

結果及び考察

いかなる組織においても、リーダーと呼ばれる人間たちの存在を抜きにしてその組織を語ることはできず、リーダーが実践するリーダーシップ如何でその組織の成否が関わってくる。今回、独自のリーダーシップを実践し、組織の集団目標を見事に達成させた事例研究として、早稲田大学ラグビー蹴球部を日本一に導いた清宮克幸氏と中竹竜二氏のリーダーシップマネジメントをそれぞれ取り上げその実態を明らかにした。その結果、彼らは全く対照的なリーダーシップを執りながらも、ともに自らの特徴を生かしたリーダーシップで組織変革を行っていたことが分かり、改めて彼らが有能なリーダーであることを証明することができた。

持論の哲学にはめた強烈なリーダーシップ型組織を築き、約束事と規律を徹底しながら、選手に対しては常に方向性を与える専制型リーダーシップを実践した清宮氏に対して、選手の自主性を重要視するフォロワーシップ型組織を築き、選手には細かな指示はせず、一人ひとり自らの頭で考えさせる交渉相談型リーダーシップを実践した中竹氏。本研究の結論としては、両者が早稲

田大学ラグビー蹴球部を常勝組織・チームへと導くことができたのは、スタイルは違えどともに独自の理論と緻密な戦略によって選手たちの心を掴み、それに基づく一貫した指導を実践した彼らの優れたリーダーシップスキルによるものであったと考える。

今後の課題

本研究では、低迷していた早稲田大学ラグビー蹴球部を日本一へと導いた清宮克幸氏と中竹

竜二氏におけるリーダーシップマネジメントについて、文献調査により比較研究を行ってきたが、事例研究の比較検証において文献調査だけでは情報量が少なかったという点が見られた。アンケート等をうまく活用すれば、おそらくもう少し多くかつ明確な情報が得られたであろう。したがって、今後の課題としては、文献だけでなくアンケート等も活用し、より詳細に比較できる情報を得て研究にあたる必要があるだろう。